

## 平成 27 年度 花火産業構想アクションプラン取組内容

## 施策 1 花火の文化的価値を高め、継承し、広く示す拠点づくり

No.	事業名称	平成 27 年度取組内容	評価	KPI (H27 年度) ※先行型交付金申請書に記載	決算額(見込み)	先行型 交付金 の活用
1-1	大仙市花火伝統文化継承事業	・ボランティアグループ「花火伝統文化継承プロジェクト」(佐藤紘二会長)と協働で全国から花火関連資料を収集し、仙北中学校旧合宿所に整理・保管	・平成 27 年 10 月末時点で約 8,000 点の資料を収集。平成 30 年 8 月までの目標 1 万点に対し順調に推移	——	1,195 千円	—
1-2	(仮称)花火伝統文化継承資料館整備事業	・地質調査(11~12 月)、女性センター及び土地区画整理事務所解体工事実施設計(11 月~1 月)、新施設基本設計(12~3 月)を実施	・平成 30 年 8 月開館に向けて、計画どおり作業を実施している	——	10,979 千円	—
1-3	花火文化資料展示事業(大仙市産業展示館等での企画展示)	・新施設整備に向けて、資料の整理を行うとともに常設展示及び企画展示の内容を検討	・産業展示館での企画展示等、貴重な花火関連資料を有効に活用していく方策を検討する必要がある	——	——	—
1-4	花火イベント等情報発信事業	・8 月 8 日にコミュニティ FM が開局。花火大会や鑑賞方法に関する情報番組「花火の星」を毎週木曜 21:00~21:30 に放送(土日に再放送) ・「全国花火競技大会」、「神岡南外花火大会」、「大曲の花火秋の章」で会場から生中継を実施 ・スマートフォン用のアプリを開発しており、電波がないエリアでもネット配信で聴取可能となっている	・聴取率を上げるため、単なるイベント告知だけでなく、役立つ情報、耳より情報取材し発信する必要がある ・ネット配信を浸透させるとともに、花火大会の開催時等には防災・交通情報を配信するためにも利用を促進する必要がある	■観光入込客増加数 (目標) 96,000 人 (実績) 16,926 人 ※見込み	4,614 千円	○
1-5	まちなか花火デザイン導入事業	・8 月 8 日、JR 大曲駅前には花火玉モニュメントを設置。なお、12 月 16 日、JR の事業でその上の壁面にイルミネーションが設置された ・JR 大曲駅前地下道に花火のまちを印象付ける装飾を実施(3 月下旬完成予定)	・花火モニュメントは記念撮影スポットとして活用が図られており、駅前地下道の装飾と合わせ、花火の街らしさが向上している	■観光入込客 実数 H25 年度 263.3 万人 H26 年度 263.1 万人 H27 年度 264.8 万人 ※H27 年度は見込み	9,789 千円	○
1-6	まちなか花火シアター事業	・11 月 3 日、大曲ヒカリオオープニングイベントで健康福祉会館壁面に市内の各花火大会や観光イベント等を映写 ・12 月 31 日、カウントダウン花火イベントで映像を映写	・大曲ヒカリオのイベントにあわせ、継続的に映写し、花火大会等の観光客の増加につなげる必要がある		2,592 千円	○
1-7	花火庵運営事業(中心市街地にぎわい創出事業)	・中心市街地の賑わい交流施設「花火庵」を設置。NPO 法人大曲花火倶楽部による資料展示スペース「大曲花火屋」の開設などで花火情報を発信	・大曲ヒカリオイベント広場完成を踏まえ、活動内容や花火庵の運営方法について再検討する必要がある	——	4,094 千円	—
合 計					33,263 千円	

施策2 花火を支える人材育成・研究開発の場の創出

No.	事業名称	平成27年度の取組内容	評価	KPI (H27年度) ※先行型交付金申請書に記載	決算額(見込み)	先行型 交付金 の活用
2-1	花火師育成事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月31日～9月4日、火薬類取扱保安責任者の資格取得支援講座を開催。市内花火会社から16人が受講し、9月6日の試験で12人が資格取得</li> <li>・高校生向けに足利工業大学煙火学出前講座を開催予定(3月15日～17日、大曲高校、大曲工業高校、西仙北高校、秋田修英高校、六郷高校)</li> <li>・花火師向けスキルアップ講座を開催予定(3月16日)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を超える実績を達成</li> <li>・(資格講座)北海道・東北の花火会社19社に案内を送付したが、初めての試みで開催日数が5日間のためか、県外の受講者はいなかった。27年度の実績を示して再度案内していく</li> <li>・(資格講座)市広報・市HPで募集したが、花火会社以外からの受講はなかった。掲載時期を早めて周知を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■火薬類製造(製造)取扱保安責任者資格者数 (目標)10人 (実績)12人</li> </ul>	612千円	○
2-2	花火師確保支援事業	(資格講座の受講者全員が花火会社従業員であったため、マッチング事業は未実施)	——	——	——	—
2-3	花火の共同研究・開発事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大曲の花火協同組合に委託し、足利工業大学と連携した「明るく濃い青色」の研究開発を実施</li> <li>・大学が提供した配合比で市内花火会社が青色の花火を製作。3月19日の新作花火コレクションで各社がサンプル配合比に基づく試作玉の打上を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発には次の課題解決が必要で時間を要する</li> <li>・明るく濃い青色を発色する新素材(ナーセム銅、グルコン酸銅)の提案があったが、高額(1kg当たり2～3万円)で頻繁に使用するのは困難である</li> <li>・発色の良い素材であっても、保存方法、他の薬剤との相性、価格等の面で課題がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■花火の研究による試作玉開発数 (目標)4種類 (実績)※開発を継続中</li> </ul>	2,877千円	○
2-4	花火学習プログラム展開事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月22日「大曲の花火」当日、花火鑑賞士会から協力をいただき、一般観光客を対象とした鑑賞方法の講習会を実施</li> <li>・1月30日、(株)わらび座のミュージカル「どどお～ん！大曲花火物語」の公演初日記念イベントで花火師によるディスカッションを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コアな花火ファンだけではなく、広く一般を対象とした花火に関する知識の普及・啓発を通じ、「大曲の花火」以外の花火大会や花火の打ち揚がるイベントへ誘客を図ったが、観光客の更なる増加には講習会の継続的な開催と講師の担い手育成を進める必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■観光入込客増加数 (目標)96,000人 (実績)16,926人 ※見込み</li> </ul>	810千円	○
合 計					4,299千円	

施策3 日本屈指の花火製造・打上技術を基盤とする新たな花火生産拠点づくり

No.	事業名称	平成 27 年度 of 取組内容	評価	KPI (H27 年度) ※先行型交付金申請書に記載	決算額(見込み)	先行型 交付金 の活用
3-1	花火工場運営会社設立事業	・4月1日、資本金 8,000 万円で㈱花火創造企業を設立	・県内金融機関、花火会社、商工業者、個人から賛同をいただき、滞りなく設立	——	977千円	—
3-2	花火生産拠点整備事業(工場・事務所・研修施設)	・9月30日、㈱花火創造企業の事務所棟が完成	・事務所棟建設費補助と雇用助成により、目標と同数の雇用を創出した ・研修施設の整備については、新たに設備投資費用が発生することから、近隣施設の活用も視野に入れ検討する	■花火創造企業の雇 用者数 (目標) 5 人 (実績) 5 人	事務所棟建設 27,756千円	○
3-3	花火生産拠点整備事業(用地造成・雇用助成)	・市が造成地の測量と造成工事実施設計を発注(3~9月) ・市が2箇年契約で造成工事を発注(9月~28年7月)。27年度は表土保全工や仮設工事等の準備工を実施 ・㈱花火創造企業が5月1日付けで5人を新規雇用し、29年度の工場稼働に向けて㈱小松煙火工業で研修中。市は雇用助成を実施	・造成にあたり必要となった開発行為・林地開発の変更手続きについては、市都市管理課・仙北地域振興局との協議により円滑に進めることができた ・花火工場用地の範囲を確定するために火薬類取締法の審査が必要であったが、事前に県資源エネルギー産業課による仮審査を受け、工程を停滞させずに造成工事を進めることができた		測量業務 4,588千円 造成実施設計 4,298千円 造成工事 8,763千円 雇用助成金 4,000千円	— — — ○
3-4	花火イベント企画運営サポート事業	・㈱花火創造企業がイベント用のパイプイスを8,000脚購入し、全国花火競技大会(6,000席)、大曲の花火秋の章(4,200席)の運営サポートを実施	・今後は各花火大会の運営を手掛けるとともに、市内外における花火イベントの企画・提案及び運営を行う	——	26,800千円	—
合 計					77,182千円	

施策4 花火ブランドを活かした観光・商業・農業振興策の強化・拡充

No.	事業名称	平成27年度の実施内容	評価	KPI (H27年度) ※先行型交付金申請書に記載	決算額(見込み)	先行型 交付金 の活用
4-1	花火工場と周辺既存施設を活用した通年観光の推進事業	(平成27年度は取組内容なし)	——	——	——	—
4-2	「花火のまち・大仙」キャラバン隊事業	・大宮駅「あきた産直市」(6月)、有楽町駅前広場「大仙市ふるさと物産フェア」(10月)、東京スカイツリー「冬祭り体験PR」(11月)など、首都圏で本市の観光物産をPRするキャラバン活動を実施 ・大曲エキまつり、首都圏からの誘客ツアー、カモースリング大曲など着地型イベントを実施	・キャラバン活動により大仙市の認知度向上は図られているが、観光客の増加には近隣の観光資源を組み合わせた観光コースのPRなど工夫が必要である ・首都圏イベントで宿泊クーポン券を48人に配布したところ、14人が実際に本市へ宿泊しており、一定の成果が得られた ・その場限りの販売ではなく、リピーターとなっていく工夫が必要である	■観光入込客増加数 (目標) 96,000人 (実績) 16,926人 ※見込み ■観光消費増加額 (目標) 887,902千円 (実績) 156,548千円 ※見込み	首都圏等PR 13,018千円 着地型イベント 2,480千円	○
4-3	花火の観光商品開発事業	(平成27年度は取組内容なし)	——	——	——	—
4-4	「HANABI」インバウンド推進事業	・9月18～28日、フランスで国際花火シンポジウム誘致活動と日系旅行会社へのトップセールス ・タイ(6月15～20日)、韓国(10月5～8日)、台湾(11月10～14日)で旅行会社エージェントとの商談会に参加。韓国で2月10日「刈野の大綱引き」のツアーが生まれ、18人の観光客が来訪。新作花火コレクションにタイのエージェント招聘、国際花火シンポジウムプレ大会に台湾のツアー造成が決定	・海外エージェントからは、秋田県の角館・田沢湖・なまはげは認識しているが花火大会は知らなかったとの意見が多数を占めた。毎月の花火大会と組み合わせるPRすることが効果的である ・国際花火シンポジウムの招致に成功しており、外国人旅行者の継続的な増加につなげる良い機会である ・市内宿泊・商業施設を対象としたセミナーを開催し、語学力、おもてなし対応力の向上を図っていく必要がある	■観光入込客増加数 (目標) 96,000人 (実績) 16,926人 ※見込み ■観光消費増加額 (目標) 887,902千円 (実績) 156,548千円 ※見込み ■第15回国際花火シンポジウム(ホルト大会)での本市PRブース来訪者数 (目標) 500人 (実績) 305人	15,813千円	○
4-5	花火ブランド一元化組織づくり事業	(平成27年度は取組内容なし)	——	——	——	—
4-6	「花火のまち・大仙」のアンテナ・ショップ整備事業	(平成27年度は取組内容なし)	——	——	——	—
4-7	「花火のまち・大仙」の「ひとくちお土産」開発事業	・観光物産協会で菓子詰め合わせ、日本酒セットの商品を開発し、パッケージを委託して制作 ・市内4事業者が行った商品開発に補助。カネトク卸総合センター(株)の「花火スティック」、ひなび大曲LLPの「さけジャーキー」、(株)物産中仙の「うさぎ肉ソーセージ」、観光物産協会の「まるびちゃんサブレ」が完成	・独自に新商品を開発することは難しく、時間も要する。外部専門家にアドバイスをもらうことなども検討する ・商品開発には費用がかかる。補助金の活用でこれまで着手できなかった開発に取り組むことができ、一定の成果が上げられている	■お土産売上増加額 (目標) 47,200千円 (実績) 18,301千円 ※見込み	4,726千円	○

No.	事業名称	平成 27 年度 of 取組内容	評価	KPI (H27 年度) ※先行型交付金申請書に記載	決算額(見込み)	先行型 交付金 の活用
4-8	花火のまちのまるごとスタンプラリー開催事業	・市内 5 花火大会(8 月「全国花火競技大会」、9 月「神岡南外花火大会」、10 月「大曲の花火秋の章」、2 月「刈和野の大綱引き」、2 月「太田の火まつり」を巡るスタンプラリーを実施し、123 人が応募。内訳は市内 32 人、県内 53 人、県外 38 人	・県外からの応募が3割を超えており、集客に一定の効果があった ・認知度を高め、参加者増加につなげる工夫が必要である ・会場周辺の飲食店など立ち寄り場所の情報も発信し、回遊性を高める工夫も必要である	■観光入込客増加数 (目標) 96,000 人 (実績) 16,926 人 ※見込み	1,109千円	○
4-9	「花火のまち・大仙」のネット・カタログ通販開発事業	・観光物産協会が 8 月 17 日からカタログ販売を開始し、2 月末までの売上は 224 件で 665,463 円 ・観光物産協会が 10 月 20 日から楽天市場にネットショップを出店し、2 月末までの売上は 62 件で 197,504 円	・カタログ通販の利用者には商品発送と同時に再度カタログを送付するなど配布方法を検討する必要がある ・ネットショップの閲覧者を増加させるには、4 半期に 1 回程度の定期的な PR キャンペーンの実施が必要である	■お土産品売上増加額 (目標) 47,200 千円 (実績) 18,301 千円 ※見込み	12,729千円	○
4-10	「メイド・イン・大仙」の花火玉原料開発・普及事業	・大曲の花火協同組合に委託し、秋田県立大学と連携した花火玉の原料炭の開発を実施 ・県内産の松、杉、もみ殻等の成分分析を実施。もみ殻は炭素成分が少ないため不適。松と杉は炭材に利用可能 ・(株)セーコンが開発したエコ玉皮を購入する費用を市内花火会社と滋賀県の花火会社に助成。17,370 発を出荷	・(炭)産業化するには、品質の安定した製造方法の確立、作り手の育成、伐採から粉碎までの生産コスト低減など課題解決が必要で時間を要する ・(エコ玉皮)補助予定期間内にはできるだけ多くの花火会社に使用してもらい、受注増加に合わせ販売単価をいかに下げられるかが課題である	■原料の研究による 試作玉開発数 (目標) 2 種類 (実績) ※開発を継続中 ■エコ玉皮出荷数 (目標) 22,000 発 (実績) 17,370 発	原料炭開発 6,138千円  エコ玉皮普及 2,210千円	○
4-11	「大曲の花・美(はな・び)」開発事業	・一次選考 21 品種に開発者推薦の 4 品種を加えた計 25 品種の中から、東京・大田市場の関係者によるアンケート調査も行い、オリジナルブランド「大曲の花火ダリア」として 4 品種を選定。現在、JA 秋田おばこが増殖に取り組んでいる ・名称は顕芯(けんしん)、八重芯(やえしん)、紫銀乱(むらさきぎらん)、和火(わび)	・既に市場関係者から「大曲の花火ダリア」が欲しいという話が来ており、今秋の一部市場出荷を目指す ・農業科学館からは栽培、大曲農業高校からは培養の取組の申し出があり、産学官で連携し地域活性化に繋げる仕組みづくりが必要である	■お土産品売上増加額 (目標) 47,200 千円 (実績) 18,301 千円 ※見込み	4,144千円	○
4-12	国際花火シンポジウム誘致推進事業	(国際花火シンポジウム誘致については、「HANA BI」インバウンド推進事業として実施)	—	—	—	—
4-13	大曲の花火ウィーク開催事業(だいせん「花火」と「食」のおもてなし事業)	・8 月 16~22 日、「大曲の花火」の開催に合わせ花火通り商店街でイベントを実施。内容は総打上数 3,550 発の『日替わり花火 Show』、『街中音楽 Show』、7 団体参加の『マーチングフェスタ』、『ご当地グルメ王国秋田』など	・花火大会に訪れる多くの観光客から、本市の地域資源と中心商店街等の魅力を広く認識していただき、継続的な賑わい創出につなげていく必要がある	—	6,941千円	—

No.	事業名称	平成 27 年度 of 取組内容	評価	KPI (H27 年度) ※先行型交付金申請書に記載	決算額(見込み)	先行型 交付金 の活用
4-14	市内で開催される花火大会等への運営支援	・27 年度、「大曲の花火秋の章」を始め、計 19 回の市内各花火大会または県外他市での交流事業において、花火打上を補助または委託	・大学との研究成果など新たな要素を取り入れるとともに、スタンプラリー開催事業等と組み合わせ、域外からの観光客増加を目指す必要がある ・外国人観光客の受け入れを推進するため、規模の大きな大会から他言語版プログラムの制作に着手する	■観光入込客増加数 (目標) 96,000 人 (実績) 16,926 人 ※見込み	25,149千円	○
4-15	「花火のまち・大仙」を支える応援購入制度	(平成 27 年度は取組内容なし)	——	——	——	—
合 計					94,457千円	